



豊岡市歩いて暮らすまちづくり構想

—健康政策から健康まちづくり政策へ—



平成24年4月

豊岡市



—目次—

〇〇	はじめに.....	2
〇1	背景.....	3
〇2	課題と解決の方向性.....	5
	(1) 健康に対する無関心層への対策.....	5
	(2) 健康寿命を延ばす施策の充実.....	5
	(3) 部門を超えた健康づくり政策の実現.....	6
〇3	基本的な考え方.....	7
	(1) 構想の位置付け.....	7
	(2) 基本理念.....	8
	(3) 目指す姿.....	9
〇4	歩いて暮らすまちづくり構想の主要事業と効果.....	10
	(1) 誰もが「健康づくり」を楽しんでいます.....	10
	(2) まちじゅうに子どもの声があふれています.....	11
	(3) お年寄りの元気な力が地域を支えています.....	12
	(4) 人や自然に対してやさしさがあふれています.....	13
	(5) 「健康あふれるまち豊岡」がみんな大好きです.....	14
〇5	推進にあたって.....	15
	(1) 市民・団体等・市の役割と連携.....	15
	(2) 効果の検証・評価.....	15
	(3) 健康あふれるまち豊岡の戦略的な広報活動.....	16
<参考1>	スマート・ウエルネスシティ共同宣言.....	17
<参考2>	スマートウエルネスシティの考え方.....	19
<参考3>	健康まちづくり構想等検討委員会名簿.....	20
<参考4>	歩いて暮らすまちづくり構想の推進体制.....	20



〇〇 はじめに

平成21年11月23日、豊岡市が参加するSmart Wellness City首長研究会において、「スマート・ウェルネスシティ共同宣言」(＜参考1＞P17参照)がなされました。

この共同宣言は、「ウェルネス(=健幸：個々人が健康で生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことができること)」をこれからの「まちづくり政策」の中核に捉え、健康に関心のある層だけが参加するこれまでの政策から脱却し、市民誰もが参加し、生活習慣病予防及び寝たきり予防を可能とするまちづくりを目指すこととしています。

そのために、科学的根拠に基づき市民の健康状態の改善が実証された以下の健康まちづくり政策を、自治体間の連携によって3年を目処に推進していこうとするもので、世界で未だ確立されていない「少子高齢・人口減社会」によって生ずる課題の克服を可能とするまちづくり「Smart Wellness City」の具体策を創造・構築することを目的としています。

＜スマートウェルネスシティの健康まちづくり政策＞

- 1) 健康に対する望ましい生活を啓発する教育の充実
- 2) 健康への貢献も視点に入れたまちの美的景観、歩道や自転車道、公園整備の推進
- 3) 健康への貢献も視点に入れた都市交通網及び商店街の整備
- 4) 夜でも歩ける治安の維持・強化
- 5) 健康づくりの視点からも地産地消ができる農業等の推進
- 6) 地域での健康づくりネットワークを支援する先端的健康サービス産業の育成

豊岡市では、この趣旨に賛同する他の全国19市(平成23年10月末現在)とも連携を図り、合わせて豊岡らしさを踏まえつつ、生活の中で歩いて暮らすことに象徴される健康の視点を取り入れたまちづくりを「豊岡市歩いて暮らすまちづくり構想」と称し、健康部門だけでなく、情報、市民生活、都市整備、環境、教育、産業、観光などの各部門が連携して、一体的な施策として実施するものです。

Smart(賢明、快適、エコ、美しい) Wellness(健幸、安心) City(まちづくり)





01 背景

少子高齢化・人口減社会では、地域活力の低下及び社会保障コストの増加は避けられず、世代間扶養モデルである年金、医療、介護はいずれも持続性が低下することから、これらを回避するための施策が必要です。

また、高齢者人口の増加に伴い、医療を必要とする人や要介護者等の人数及びその割合も増加傾向にあり、今後も医療費や介護給付費の増加が予測されます。

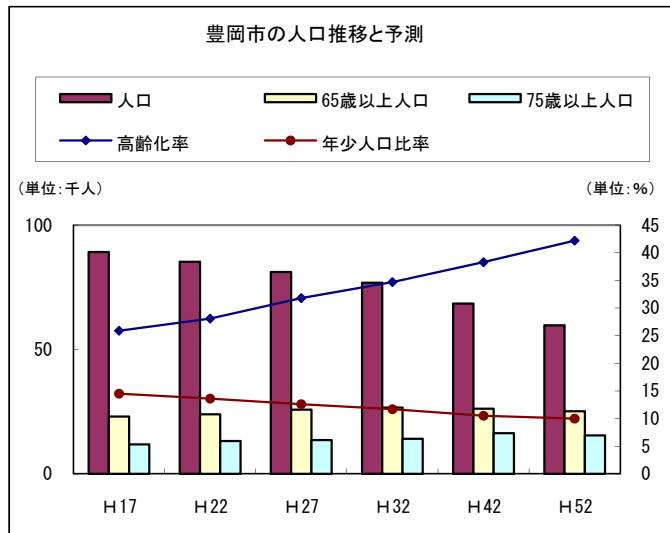
さらに、人口減社会の中では、経済規模の縮小・沈滞から税収の減による公共サービスのレベル低下、集落機能や地域の活力低下などが生じることも予測されています。

○豊岡市における現状

本市における高齢化率は28.3%（平成22年2月1日現在）と県内でも高齢化が進んだ地域であり、平成27年には31.8%と市民の約3人に1人が高齢者になると見込まれています。

合計特殊出生率¹は、平成22年で1.94と長期に人口を維持するために必要とされている2.07～2.08を下回り、人口も、平成17年89,208人が平成27年には81,107人、平成42年には68,486人に減少すると推計されており、今後、急激に少子高齢化が進む見込みです。

また、本市の平成20年の主要死因別死亡原因を見ると、悪性新生物29.1%、心疾患15.3%、脳血管疾患10.2%、糖尿病1.4%、高血圧性疾患1.0%と、食生活や運動不足に起因する生活習慣病が約6割を占めています。生活習慣病健診の結果を見ても、全ての項目で正常範囲内の者が減少し、生活習慣病継続加療者は、増加傾向にあります。

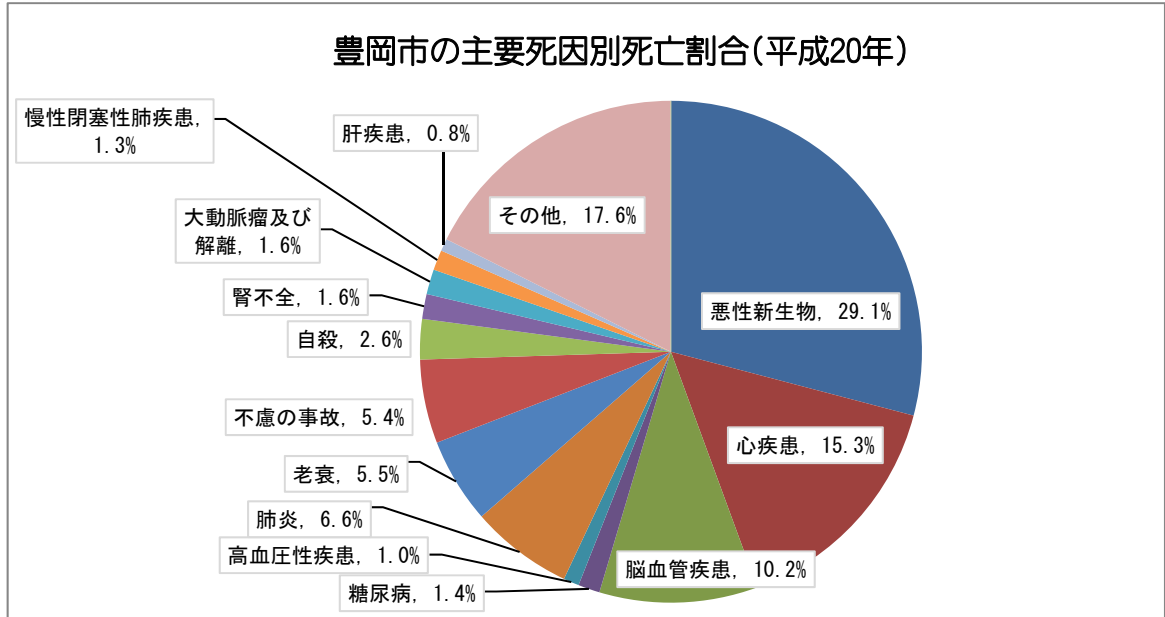


(兵庫県将来推計人口【平成20年5月】)

すこやか市民ドッグ基本健診の総合判定結果

	区分	受診者数	正常範囲	軽度異常	要指導	要医療	継続加療
平成20年度	対象者	7,823人	547人	974人	2,293人	1,109人	2,900人
	割合	100%	7.0%	12.5%	29.3%	14.2%	37.1%
平成21年度	対象者	7,705人	461人	862人	2,207人	1,041人	3,134人
	割合	100%	6.0%	11.2%	28.6%	13.5%	40.7%

¹ 合計特殊出生率（ごうけいとくしゅしゅっしょうりつ）…人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産む子供の平均数を示す。この指標によって、異なる時代、異なる集団間の出生による人口の自然増減を比較・評価することができる。粗再生産率とも呼ばれる。（フリー百科事典より）



(平成20年保健統計年報【兵庫県】)

さらに、平成18年度に実施した市民アンケートの結果、運動習慣者（1日30分以上週3回以上）の割合は、成人男性23.3%、成人女性20.8%と県に比べ少ないことが判明しました。

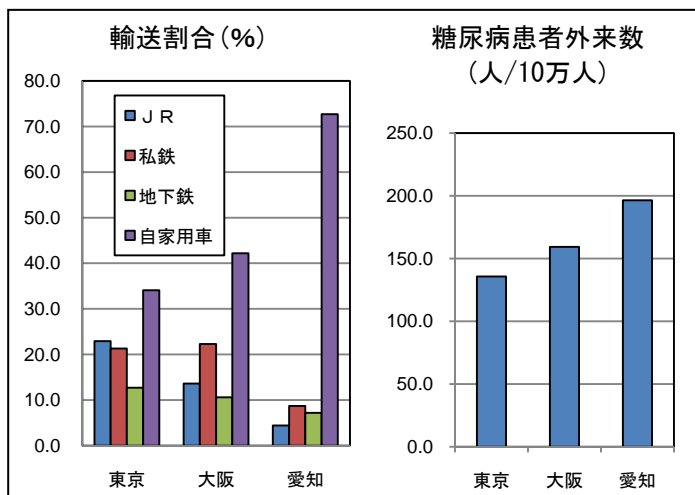
平成18年度豊岡市健康行動計画策定のためのアンケート調査

	区分	市	兵庫県(H16)	国(参考:H16)
運動習慣者(1日30分以上週3回以上)の割合	成人男性	23.3%	33.1%	30.9%
	成人女性	20.8%	34.3%	25.8%

参考：国は、1回30分以上の運動を週2回以上実施している者の割合を示している。

こうした現状の中、本市は、合併による広大なエリア、少子高齢化の進展などの市の特性や健康課題を明確にしなが、市民が健康で生きがいを持って暮らすことのできるまちをつくる必要があります。

○東京・大阪・愛知における自家用車輸送割合と糖尿病患者数²



生活習慣病の発症には、個人的因子だけではなく、環境因子も一定の影響があります(左記の表から、自家用車を利用する人が多いほど糖尿病患者も多くなる結果が得られています)。

²為本浩至：肥満と糖尿病，8:923，2009



02 課題と解決の方向性

(1) 健康に対する無関心層への対策

これまでの健康施策は、主に健康に関心のある層（呼びかけに反応した市民）が参加する取組みに留まっていた。

健康に対する関心度が低い人ほど、生活習慣病や要介護状態になる可能性が高く、この層に対して健康への関心を高め、行動変化を起こさせる施策を行うことが今後の課題です。

また、健康に関心があっても、仕事や家庭の事情などにより行動を起こすことができない市民も多く、健康づくりへの行動のハードルを下げる仕組みや仕掛けを行うことも必要です。

◇これまで実施してきた事業(例)

市主催の健康講演会、健康運動教室、公民館主催の健康づくり教室など、広報やチラシの配布による呼びかけにより反応された市民や健康づくり関係者を中心に実施していました。

また、市が実施する健康運動教室は、主に平日の昼間（主に主婦層や高齢者層が中心）であり、勤労者世代や子育て世代の健康づくりを行うための積極的な支援はあまり実施していませんでした。



(2) 健康寿命を延ばす施策の充実

少子超高齢社会にあつては、健康は社会資本です。健康づくり政策によって健康寿命を延長化し、医療・介護の受給者の増加を抑制し、労働できる健康状態を長期にわたって維持することが必要です。

また、健康寿命を延ばすことは、ひいては医療費、介護給付費の削減につながりません。

しかしながら、これまでは生活習慣病予備軍や要介護状態になる可能性が高い高齢者に対する施策が中心であり、中長期的にみて医療費等の増加に最も関係の深い健康な市民に対する施策は、健康診査や健康教育などの保健事業以外は実施していませんでした。

今後は、健康状態の改善を要する市民への対応はもちろんのこと、健康な市民に対しても、健康寿命を延ばすための正しい知識を広め、それを基にその人にあった健康づくりの取組みを支援する効果的な仕組み、仕掛けを社会全体で構築することが喫緊の課題です。



◇これまで実施してきた事業(例)

特定保健指導、からだ元気塾（高齢者事業）の対象者など、健診結果により生活習慣改善等が必要な一部の市民に対して健康施策が主に行われていますが、比較的健康であり、医療費等の非受給者である多くの市民に対する健康施策はあまり行われていません。

(3) 部門を超えた健康づくり政策の実現

これまでの健康施策は、健診や予防接種、健康啓発など公衆衛生的な面からの健康部門を中心とした取り組みであり、市民全体に浸透する多面的な健康施策ではありませんでした。

また、他の部門においても、それぞれに健康に関連した施策を展開していましたが、同じ目標や目的に向かって推し進めているものの、連携が不十分でした。

市民が健康になることで、市民交流や社会参加による消費の増加など経済活動が活発になり、市民交流や経済活動が活発になることで、さらに市民が健康になることから、今後は健康部門のみの施策ではなく、あらゆる部門の施策と連携して、健康の視点を取り入れたまちづくりを進める必要があります。

これらについては、人々が健康づくりのために行動を変えるには、どのような要因が関係しているのかといった各々の専門分野における検証も蓄積されてきており、都市環境の整備による健康寿命の延伸について、健康づくりを促進するための都市環境のあり方に関する研究がなされ、以下の結果が示されています。

美的景観、歩道の利便性、店や目的地へのアクセスがよいほど歩行量が増加³

車通勤者は、公共交通通勤者に比べて生活習慣病になるリスクが3倍以上高い⁴

住居周辺の散歩空間、公園及び並木道があるほど生存率が5年高い⁵

◇これまで実施してきた事業(例)

歩キングコースの設定、食育教室など、それぞれの部門が独自の考え方にに基づき事業を実施しており、他の部門との連携はあまり図られていません。

また、それぞれの事業に一般的な健康に対する視点はあるものの、健康増進につながる専門的な視点を取り入れていませんでした。

参考文献は、次のように表示しています。【著者名：論文名・雑誌名、巻・号数：引用ページ、出版年】

³ Owen, N. et al: Understanding environmental influences on walking. Review and research agenda. Am J Prev Med, 27: 67-76. 2004

⁴ 石井香織 他:日本人成人における活動的な通勤手段に関連する環境要因. 体力科学, 59: 215-224. 2010

⁵ Inoue S et al: Association of physical activity and neighborhood environment among Japanese adults. Prev Med, 48: 321-325. 2009



03 基本的な考え方

(1) 構想の位置付け

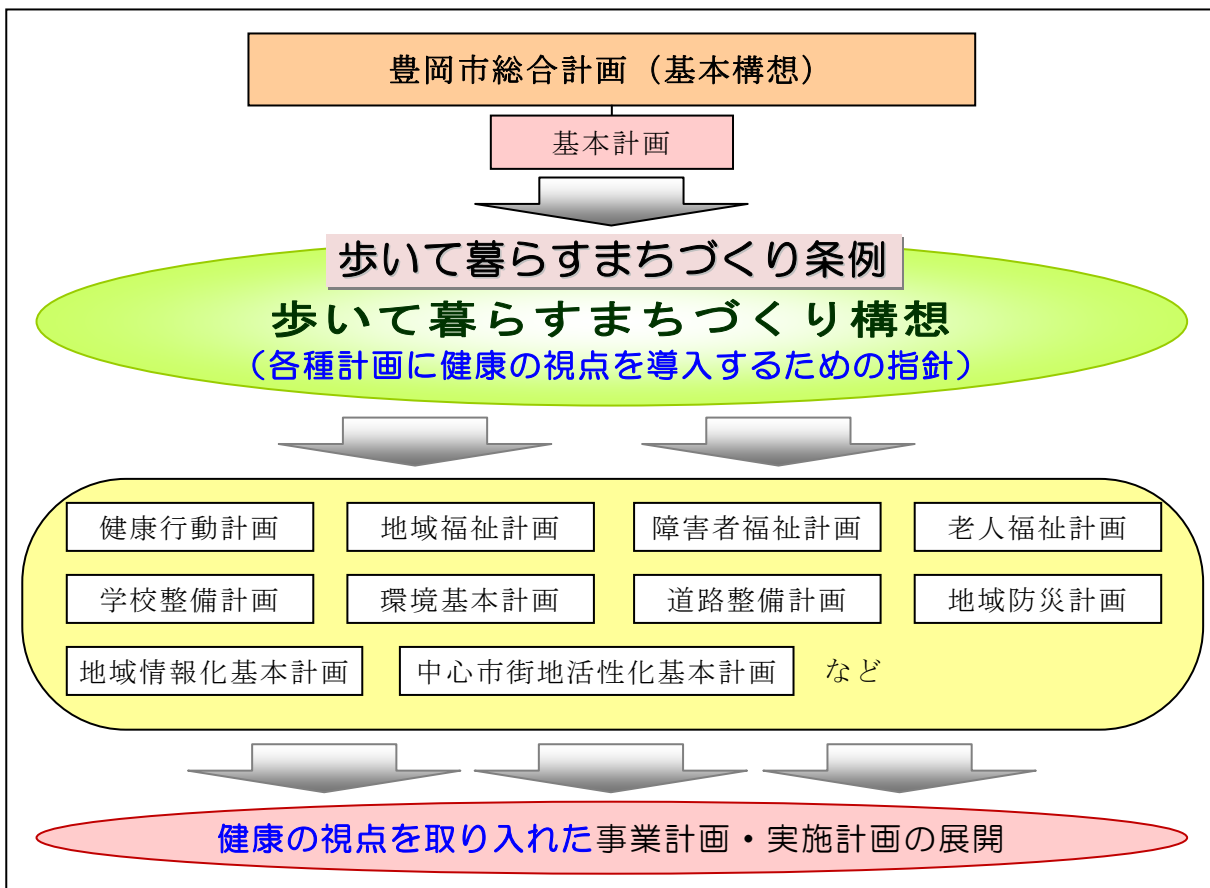
少子高齢化・人口減社会を迎える中で、地域活力の低下や社会保障コストの増加等の社会的課題を克服していくには、市民誰もが健康で生きいきと地域を支え合うまちづくりを進める必要があり、豊岡市総合計画の趣旨を受けて制定した歩いて暮らすまちづくり条例に基づいて、この構想を策定するものです。

今後、健康まちづくりを進めるためには、市民の健康に対する意識を高めるための施策や意識をしなくても自然に健康行動につながるような仕掛けづくりを進めるなど、「健康まちづくり政策」としてあらゆる部門が連携していく必要があります。

そこで、この構想は、様々な生活実態にある全ての市民の健康づくりを進めるための普遍的な理念を示すものとし、市が定め実施する基本的な計画の根幹に置き、それらの計画策定や事業実施の際の指針（フィルター）としての機能を果たすものとして策定します。

したがって、この構想の理念実現に向けた数値目標及び目標年限は、各計画及び事業において定めるものです。

○総合計画、その他の計画と歩いて暮らすまちづくり構想の位置付け





(2) 基本理念

生涯にわたり元気で楽しく豊かに暮らすためには、健康であることが何よりも大切です。

私たちは、健康まちづくりを進めることで、子どもから高齢者まで、市民一人ひとりが健康で笑顔にあふれて生きいきと暮らし、お互いの限られた大切な命への共感を持って、地域のコミュニティがしっかりと構築された持続可能なまちづくりが実現されることを願っています。

そこで、この構想の基本理念を「こどもの笑顔・100歳の笑顔 健康あふれるまち 豊岡」と定めて、車の便利さを見つめ直すとともに、歩くことを基本とする健康まちづくりを積極的に進めます。

今後は、市民一人ひとりがより積極的な社会とのつながりの中で、創造的に健康を目指した生活行動を起こし、心も身体も健康であり続けられるよう、楽しみながら健康になれるまちづくり、自然に健康になれるまちづくり、地域資源を活用したまちづくり、環境に優しいまちづくりなど、スマートウエルネスシティの考え方（＜参考2＞P19参照）を基に、「市民意識の変革」と「まちのあり様の変革」を進めることが必要です。

基本理念の実現に向けては、豊岡市の現状や課題、自然環境や社会環境を踏まえつつ、次の5つの目指す姿を掲げて健康まちづくり施策を展開していくものとします。

基本理念

こどもの笑顔・100歳の笑顔
健康あふれるまち 豊岡

歩いて健康に暮らすまちづくりを進めると…

目指す姿

- (1) 誰もが「健康づくり」を楽しんでいます
- (2) まちじゅうに子どもの声があふれています
- (3) お年寄りの元気な力が地域を支えています
- (4) 人や自然に対してやさしさがあふれています
- (5) 「健康あふれるまち豊岡」がみんな大好きです



(3) 目指す姿

5つの目指す姿は、基本理念が実現されたときに見られるまちの姿・光景を描いたものです。

それぞれの施策は、“歩いて健康に暮らす”まちづくりを進めるため、健康への無関心層の関心を高め、行動変化につながる仕掛け・仕組みとして、「健康であることは素敵だ」「健康づくりは楽しい」との視点を取り入れながら展開していきます。

(1) 誰もが「健康づくり」を楽しんでいます

**市民が楽しく健康づくりに取り組み
心身ともに健康である姿を目指して**

- みんなが歩くことを格好いいと感じて楽しんでいます。
- 人が集い語り合う場が、人々の健康を支え合う力になっています。
- 「食」を通じた健康づくりを楽しんでいます。

詳細は P.10

(2) まちじゅうに 子どもの声があふれています

**豊岡市の将来を担う
子どもたちの健やかな成長を目指して**

- 子どもたちが元気に走り回っています。
- たくさんの方がまちじゅうで子どもたちを見守っています。

詳細は P.11

(3) お年寄りの元気な力が 地域を支えています

**お年寄りが生きがいを持って元気で健康に過ごし
積極的に地域や家庭を支えている姿を目指して**

- お年寄りが子どもたちと仲良く歩いている姿をよく見かけます。
- お年寄りが地域の中で元気に活躍しています。

詳細は P.12

(4) 人や自然に対して やさしさがあふれています

**人や自然を大切に
豊かな自然を生かした健康づくりを目指して**

- 四季を感じながら、まちを散策している人を見かけます。
- 人や自然を思いやり、健康であることを大切にしようとしています。

詳細は P.13

(5) 「健康あふれるまち豊岡」が みんな大好きです

**健康づくりの進んだ豊岡市を市民の誰もが誇りに思い
その魅力を発信し
経済活動も活性化している姿を目指して**

- 健康づくりが経済に好影響を与えています。
- 健康あふれるまち豊岡を誇りに思い、まちの魅力を発信しています。

詳細は P.14



04 歩いて暮らすまちづくり構想の主要事業と効果

歩いて暮らすまちづくり構想では、「こどもの笑顔・100歳の笑顔 健康あふれるまち 豊岡」を達成するための目指す姿を5つ設定し、目標として掲げています。

以下は、目指す姿の実現に向けて取り組むべき主要事業とその効果を例示します。

なお、目指す姿の実現に資する事業については、例示以外の事業においても積極的に取り組んでいきます。

(1) 誰もが「健康づくり」を楽しんでいます

- みんなが歩くことを格好いいと感じて楽しんでいます。
- 人が集い語り合う場が、人々の健康を支え合う力になっています。
- 「食」を通じた健康づくりを楽しんでいます。

＜具体的な主要事業＞

・健康ポイント制度（継続）

市民の積極的な健康づくりを支援するため、健康づくりの実践に対しポイントを付与

・健康づくり推進モデル事業（新規）

地域での健康づくり活動の支援が、地域の活力を高め、さらに健康行動の拡大につながることを調査し、健康行動の市全体での普及・拡大を目指す

・歩キング推進事業（拡充）

豊富な自然や観光地も取り入れた歩くことによる健康づくりの普及啓発

・健康づくりにつながる組織の育成（継続）

スポーツクラブ21、健康をすすめる会、公民館活動など健康づくりにつながるグループ、サークルなどの活動の支援

・買物バス（新規）

村部に住む高齢者の買物支援と、健康管理を目的に買物バスの運行を検討

・携帯版健康ネットシステム（新規）

健康意識の向上と健康づくりの実践を支援するため、携帯電話を活用した健康ネットワークシステムを検討

・食育推進事業（継続）

朝ごはんの推進、民間も含めた地産地消や貸農園の推進、郷土料理教室の開催など、子どもから高齢者までの各世代において楽しく食育を学ぶ場を提供

■ 期待される効果

健康に対する意識向上と行動変化

仲間づくり

心の健康づくり





(2) まちじゅうに子どもの声があふれています

- 子どもたちが元気に走り回っています。
- たくさんの方がまちじゅうで子どもたちを見守っています。

＜具体的な主要事業＞

• 環境体験及び自然学校（継続）

環境体験及び自然学校事業実施に係る学校指導及び事業の推進

• 校庭芝生化（継続）

基礎体力の向上や環境面の改善、地域と学校の連携を強化するため、小学校等の芝生化を推進

• すくすくプログラム（継続）

就学前教育から小学校への確かな継続を図るための力の育成（健康な体をつくる力、自然や身近な環境にかかわる力）

• 幼児期における運動遊び（継続）

幼児期における運動遊びを通じた心身の健やかな成長を推進

• 子どもの野生復帰大作戦（継続）

子どもの野外活動や自然体験の機会を増やし、自立心・社会性を身に付けた子どもの育成

• 子どもの登下校時の見守り（継続）

子どもの登下校時の安全の確保と地域の方とのふれあい

■ 期待される効果

学校や学年を超えた交流

幼児期の体づくり

世代間交流

快適な環境形成

安全安心の維持・強化





(3) お年寄りの元気な力が地域を支えています

- お年寄りが子どもたちと仲良く歩いている姿をよく見かけます。
- お年寄りが地域の中で元気に活躍しています。

<具体的な主要事業>

- **三世代交流事業（継続）**

地域の中のお年寄り、大人、子どもの三世代交流イベントの推進

- **老人クラブ活動（継続）**

高齢者同士の交流、地域活動、異世代交流等、老人クラブ活動の支援

- **敬老会事業（継続）**

地域住民の主導による敬老会実施の支援

- **地域文化愛護活動の推進（継続）**

伝統芸能教室の開催等、伝統文化の継承や、史跡、建造物、街並みなどにふれる歴史ウォーク等の開催

■ 期待される効果

世代間交流

地域間交流

地域文化の継承





(4) 人や自然に対してやさしさがあふれています

- ・四季を感じながら、まちを散策している人を見かけます。
- ・人や自然を思いやり、健康であることを大切にしようとしています。

<具体的な主要事業>

- ・ウォーキングロード【歩道機能の拡充、案内板の設置】(新規・拡充)
ウォーキングロード・サイクリングロードの整備、距離・運動量等の表示
- ・防犯灯設置及び維持管理(拡充)
防犯灯の省エネルギー、省資源化への移行
- ・環境創造型農業(拡充)
「コウノトリの舞」など、環境に配慮した農法による農産物の推進とPRの実施
- ・コウノトリ共生推進事業(拡充)
生きもの共生の日(5月20日)事業などによる共生意識の醸成
- ・自然環境保全事業(拡充)
コウノトリの生息環境の保全をはじめとする希少動植物の保護、外来種対策
- ・クリーン作戦(拡充)
ウォーキングを兼ねたごみ拾い活動

■ 期待される効果

環境意識の啓発

環境整備・美化

健康に対する意識向上と行動変化

農産物の付加価値の向上

環境維持への参加





(5) 「健康あふれるまち豊岡」がみんな大好きです

- 健康づくりが経済に好影響を与えています。
- 健康あふれるまち豊岡を誇りに思い、まちの魅力を発信しています。

＜具体的な主要事業＞

• 公共交通利用者への特典サービス（新規）

公共交通の利用促進とともに、地域の活性化を図るため、公共交通利用者等の各種特典サービスの提供を検討

• 賑わい・交流の場づくり（新規）

まちなかで歩いて集える賑わい・交流の場づくりや仕組みづくりを検討

• コウノトリ共生推進事業（継続）

コウノトリ野生復帰への取組みに対する理解、興味、誇りを持てるような啓発活動

• 山陰海岸ジオパーク推進事業（拡充）

ジオウォークや名所巡りなど、ジオパークの目指す自然環境の保護保全、自然環境を利用した産業の振興を推進し、郷土の誇りとして国内外へ魅力を発信

• スポーツ大会等の推進（拡充）

兵庫神鍋高原マラソン全国大会など全国レベルの大会の開催と健康づくりを目的としたノルディックウォーキング等の推進

■ 期待される効果

市内経済の活性化

農産物の付加価値の向上

観光資源の情報発信

交流の拡大

コウノトリが舞う豊岡を誇りに思う





05 推進にあたって

(1) 市民・団体等・市の役割と連携

歩いて暮らすまちづくり構想を推進するには、「市民」、「団体等」、「市」が三位一体となって取り組む必要があります。

○市民の役割

市民は、「健康は守るものからつくるもの」を念頭におき、個々に応じた健康づくりを日々の暮らしの中で積極的に取り入れるとともに、市や団体等が実施する健康増進につながるサービスを積極的に利用するなどの意識改革と行動変化が求められます。そして、信頼や互惠性などに基づく人々の協調行動の促進によって、それらがさらに高まるよう地域とのつながりも含めたコミュニティの形成も必要になります。

○団体等の役割

団体等（市内で活動する団体及び市内に事業所または事業所を有する事業者）は、健康に対する意識を高め、関係者（従業員を含む）への積極的な健康づくり支援が求められます。また、健康産業への参画など、地域経済の活性化への取組みも期待されます。

○市の役割

市は、健康部門のみの施策ではなく、市役所内のあらゆる部門の施策と連携して、市民や団体等の健康意識を高めるためのあらゆる方面からの方策（仕組み・仕掛け）を提示するとともに、道路や街並み整備などのハード面についても、健康の視点を取り入れた施策を展開していきます。



(2) 効果の検証・評価

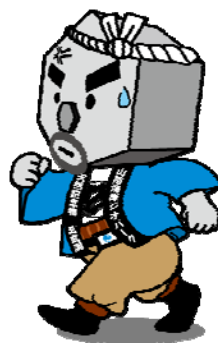
本構想の今後の具体的施策の立案や展開にあたっては、社会情勢の変化や Smart Wellness City 首長研究会での様々な研究結果、実施した施策の科学的データによる検証結果等により、事業の評価や見直しを行い、効率的かつ効果的で時勢に即した施策を推進していくこととします。



(3) 健康あふれるまち豊岡の戦略的な広報活動

健康というキーワードのもと、まちを総合的に変えることで市民の意識や行動を変え、近い将来、子どもから高齢者までのすべての世代の笑顔がまちじゅうにあふれるまちづくりを進めます。

そのためにも、各施策の内容や検証結果の戦略的な広報活動や情報開示を進め、健康あふれるまち豊岡を市民の誰もが誇りに思い、この小さな世界都市・豊岡から世界に向けて“健康あふれるまち豊岡”が発信できるよう努めていきます。



豊岡市マスコット
「玄さん」



豊岡市マスコット
「コーちゃん」



豊岡市マスコット
「オーちゃん」



＜参考1＞スマート・ウェルネスシティ共同宣言

(平成21年11月23日)

Smart Wellness City 首長研究会・発起人会共同宣言

本プロジェクトは、「ウェルネス（＝健幸：個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできること）」をこれからの「まちづくり政策」の中核に捉え、健康に関心のある層だけが参加するこれまでの政策から脱却し、市民誰もが参加し、生活習慣病予防及び寝たきり予防を可能とするまちづくりを目指す。そのために、科学的根拠に基づき市民の健康状態の改善が実証された以下の健康まちづくり政策を、自治体間の連携によって3年を目処に推進していこうとするものである。

- 1) 健康に対する望ましい生活を啓蒙する教育の充実
- 2) 健康への貢献も視点に入れたまちの美的景観及び歩道や自転車道、及び公園整備の推進
- 3) 健康への貢献も視点に入れた都市交通網及び商店街の整備
- 4) 夜でも歩ける治安の維持・強化
- 5) 健康づくりの視点からも地産地消ができる農業等の推進
- 6) 地域での健康づくりネットワークを支援する、先端的健康サービス産業の育成

これらにより、世界で未だ確立されていない「少子高齢・人口減社会」の克服を可能とするまちづくり「Smart Wellness City」の具体策を創造・構築することを目的とする。

【共同宣言】

我が国の超高齢・人口減社会によって生じる様々な社会課題を、自治体自ら克服するため、この危機感を共有する首長が集結し、健幸をこれからのまちづくりの基本に据えた政策を連携しながら実行することにより、3年を目処に最新の科学技術や科学的根拠に基づく持続可能な新しい都市モデル「Smart Wellness City」の構築を目指すものである。

趣旨

これまで自治体で行われてきた疾病予防のための健康政策は、担当部局に閉じた公衆衛生の視点のみで行われてきた例が多く、市民全体に浸透する多面的な健康政策は、ほとんど行われてこなかった。この状況を打破しない限り、今後ボディーブローのように効いてくる「少子高齢・人口減社会」の進展により、地域の活力が低下していくことは、多方面の分析からも明らかである。

また、我々の最近の研究結果から、地域における予防施策を拡大し、定着化していくためには、これまで予防施策における中核であった健診によるスクリーニング、指導者の資質向上及び行動変容プログラムの開発一辺倒のみでは、課題解決が困難であることが示されている。

なぜならば、①健診からスクリーニングされた対象者はなかなか保健指導や介護予防事業に参加しない。②自治体が中年や高齢者に対して実施している健康教室への参加者は、健康度は比較的良好で、医療費も低い傾向であることが示されているからである。

さらに、最近都市のあり方（交通網や、歩道や公園整備、美的景観）そのものが生活習慣病の発症に一定の影響を及ぼすことが科学的にも示されている。これまでの担当部局単独での健康づくり政策推進では限界があり、生活習慣病の克服が困難であることは明白である。



これらの課題を解決していくには、部局を超えた連携によって実現するSmart（賢明、快適、エコ、美しい）・Wellness（健幸、安心）・City（まちづくり）のベストプラクティスが必要であると考えます。今後、今回参加自治体が自主財源でこれらに取り組むと同時に、国レベルの取組みに発展させていくことを目標とする。

主要取組テーマ

1. Smart Wellness City ビジョンの策定。特に、何がSmartなのか？21世紀型Smart Wellness City の理想像の確立
2. 市民が自然と健康活動をしたくなる都市インフラ（環境、道路、公園、交通等も含む）のあり方の検討
3. なかなか行動変容を起こせない市民を健康づくりに誘導するための新しい社会技術の開発
 - 1) ウェルネスコミュニティポイントを利用した市民誘導策
 - 2) 科学的なマーケティング等を活用した広報戦略
 - 3) 市民の望ましいヘルス・リテラシーの育成
4. より多くの市民が参加でき、民間とも協働しながら、行政コスト的にもサステナブルな「ウェルネスステーション」の成立
 - 1) 地域の医療機関、薬局等との地域連携
 - 2) 今後増加する定年退職者の受皿としての機能も併せ持つコミュニティビジネスの創生
5. 「Smart Wellness City」を構築していくための市職員の高度人材育成（自治体職員合同研修会&研究会の実施）
6. 2～5の課題における科学的検証と指標設定

実施事業

1. 年2回の研究会の実施（各自治体持ち回り）
2. Smart Wellness City 大賞の創設
3. 国等への政策提言

発起人（順不同）

福島県 伊達市長	仁志田 昇司
新潟県 新潟市長	篠田 昭
新潟県 三条市長	國定 勇人
新潟県 見附市長	久住 時男
茨城県 つくば市長	市原 健一
岐阜県 岐阜市長	細江 茂光
兵庫県 豊岡市長	中貝 宗治
香川県 善通寺市長	宮下 裕
熊本県 天草市長	安田 公寛
筑波大学大学院人間総合科学研究科 准教授	久野 譜也（幹事）
慶応大学経済学部 教授・厚生労働省非常勤顧問	駒村 康平
筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授	山縣 邦弘
特定非営利活動法人 地域交流センター 研究員	浜田 靖彦

※適宜、発起人会員が認める首長・学識者を会員として追加する。



＜参考2＞スマートウェルネスシティの考え方

スマートウェルネスシティの考え方は、「市民意識の変革」と「まちのあり様の変革」を基本に、ウェルネス（健幸）の視点を取り入れた以下の4つの健康まちづくり政策の柱を示しています。

●自然に健康になれるまちづくり

- ⇒都市交通、道路整備のあり方（歩道、自転車道、街路樹等）
- ⇒地産地消、無（減）農薬農産物

●楽しみながら健康になれるまちづくり

- ⇒自ら外に出たくなるコミュニティづくり
- ⇒樹花の豊かな街 公園

●地域資源を利活用したまちづくり

- ⇒住民の持つ知見を活用した健康産業の育成、農業振興
- ⇒地域の力を活用・発信することによる観光産業の育成

●環境に優しいまちづくり

- ⇒歩きながら環境美化（ポイ捨てごみの回収）、車に乗らずCO₂削減
- ⇒人目による安全安心の輪



<参考3>健康まちづくり構想等検討委員会名簿

歩いて暮らすまちづくり構想を策定するにあたり、専門家、利用者等様々な立場からご意見をいただき、より良い構想とするため、下記のとおり検討委員会を設置しました。

分野	団体名	役職名	性別	氏名	備考
自治会組織	豊岡市区長連合会	会 長	男	村田 正次	委員長
医療関係	豊岡市医師会	副会長	男	舟木 宏	
健康づくり団体	豊岡市健康をすすめる会		女	保正 勝美	
福祉団体	豊岡市社会福祉協議会 (豊岡地区センター)	事務長	女	岩出 智子	副委員長
商工関係	豊岡市商工会(女性部)	部 長	女	谷口 千恵子	
スポーツ関係	豊岡市スポーツクラブ 21 豊岡市連絡協議会	理 事	男	藤本 健治	
スポーツ関係	ウェルストーク豊岡	支配人	男	赤間 俊輔	
スポーツ関係	スポーツ指導員		女	小西 晶子	
生涯学習関係	豊岡市PTA連合会 (城崎中学校PTA)	副会長	女	高宮 美奈	
高齢者団体	豊岡市老人クラブ連合会 (豊岡高年クラブ連合会)	副会長	男	安井 義和	
行政機関	兵庫県豊岡健康福祉事務所 (地域保健課)	課長補佐	女	西田 利枝	

順不同、敬称略

<参考4>歩いて暮らすまちづくり構想の推進体制

